

京都府漁海況情報

京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話:0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

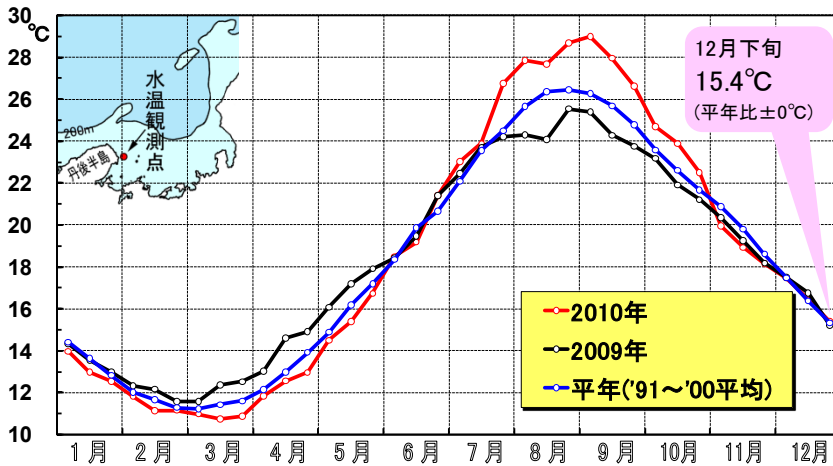
海の状況

【現況】

2010年12月以降における京都府沿岸の表層水温は、ほぼ平年並みで推移しています。

伊根町新井崎地先の表層水温*

※1月上旬～12月中旬は5m深、12月下旬は10m深の測定値



【今後の見込み】

資料元：(独)日本海区水産研究所, 気象庁, 九州大学応用力学研究所

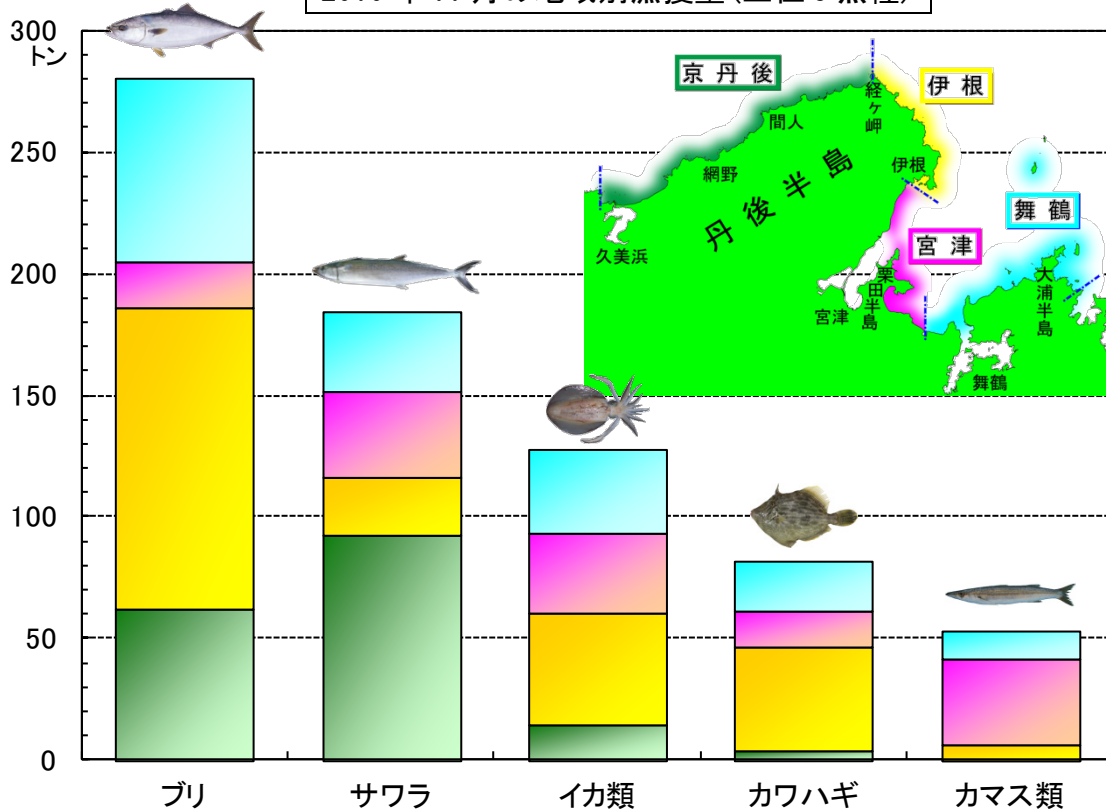
向こう1か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年並み」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年より弱め」で推移する見込み

漁模様 ～2010年11月～

【定置網漁業】

ブリやサワラ、イカ類が好漁で、全体では前年および平年を上回る水揚げでした。

2010年11月の地域別漁獲量(上位5魚種)



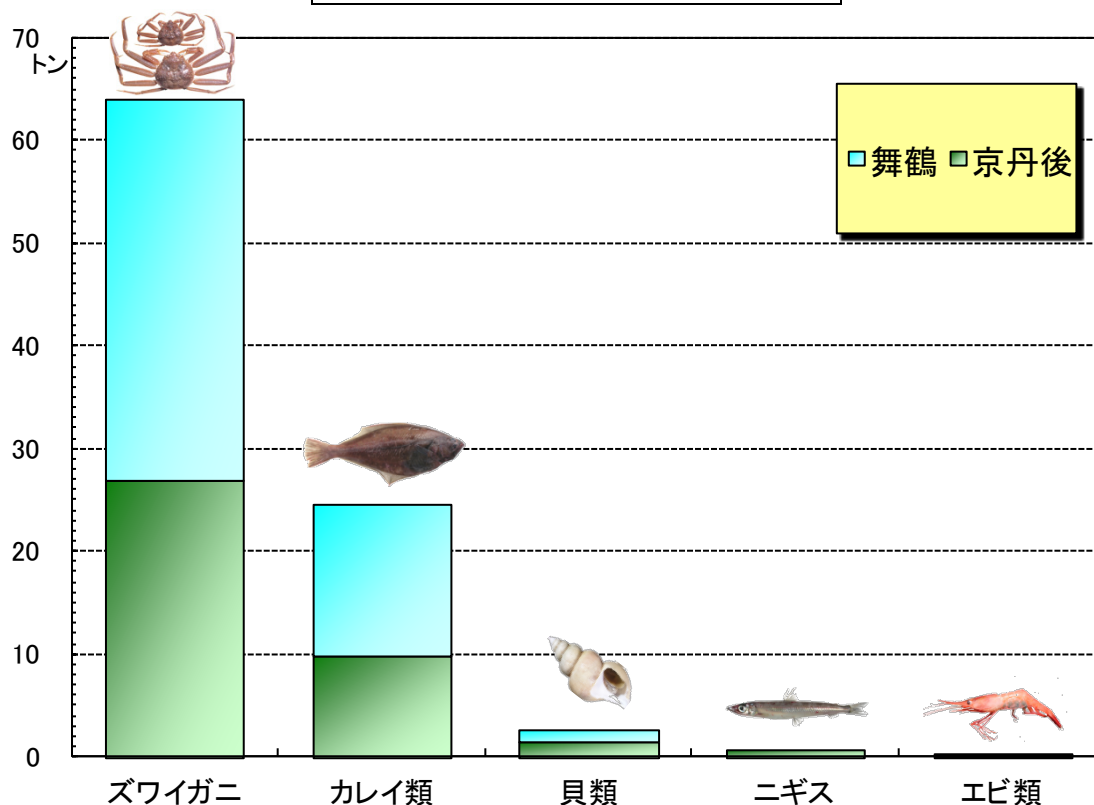
11月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2010年	2009年(前年比)	平年(平年比)	備考
ブリ	280.3	137.0 (205%)	96.0 (292%)	<サワラ>
サワラ	184.4	101.6 (182%)	146.2 (126%)	さごし銘柄(尾さ長40～50cm主体)が約6割、さわら銘柄(尾さ長60～90cm級)が約4割でした。
イカ類	128.2	49.5 (259%)	90.2 (142%)	<ブリ>
カワハギ(丸はぎ)	81.9	24.6 (333%)	32.4 (253%)	つばす銘柄(尾さ長35～45cm主体)が9割以上、残りがはまち銘柄、まるご銘柄およびぶり銘柄でした。
カマス類	52.9	22.2 (238%)	22.5 (235%)	<イカ類>
マアジ	44.2	115.5 (38%)	164.9 (27%)	アオリイカ(秋いか)が72.1トン、ケンサキイカ(白いか)が31.7トン、ソデイカ(たるいか)が23.1トンなどでした。
カツオ類	34.1	90.4 (38%)	56.8 (60%)	
シイラ	27.1	10.4 (261%)	31.0 (87%)	
メジナ(つかや)	21.0	23.9 (88%)	12.6 (166%)	
シロサバフグ(さんきゅう)	18.3	3.4 (538%)	15.2 (120%)	
その他	107.9	229.7 (47%)	253.3 (43%)	
合計	980.3	808.1 (121%)	921.4 (106%)	

平年は過去10年平均

【底曳網漁業】

全体では平年および前年並みの水揚げでした。

2010年11月の漁獲量(上位5魚種)

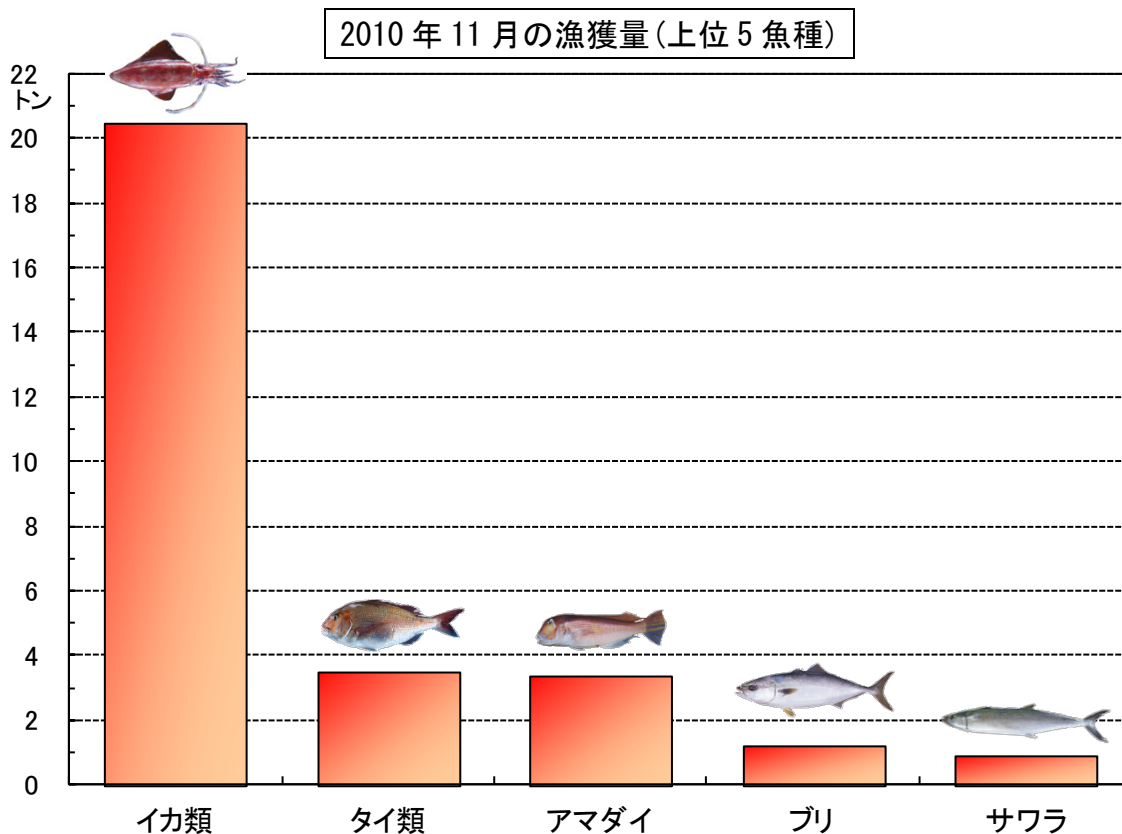


11月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2010年	2009年(前年比)	平年(平年比)	備考
ズワイガニ	63.5	62.1 102%	66.7 95%	<ズワイガニ> 11月6日に漁が解禁されました。オス(松葉がに)は28.1トン、メス(せこがに)は35.4トンでした。 <カレイ類> アカガレイ(まがれい)が21.5トン、ヒレグロ(黒かれい)が3.1トンなどでした。
カレイ類	24.7	15.3 161%	17.8 138%	
貝類	2.7	1.6 169%	1.9 138%	
ニギス(沖きす)	0.7	1.0 64%	1.3 50%	
エビ類	0.3	0.1 198%	0.3 101%	
タラ類	0.1	0.5 28%	0.1 112%	
カニ類(ズワイガニ除く)	0.1	0.1 -	0.0 -	
タコ類	0.1	0.2 37%	0.5 15%	
その他	0.2	0.6 25%	3.0 5%	
合計	92.8	81.6 113%	91.6 101%	

平年は過去10年平均

【釣り・はえなわ漁業】

イカ類の釣獲が好調で、全体では前年の約1.5倍および平年並みの水揚げでした。



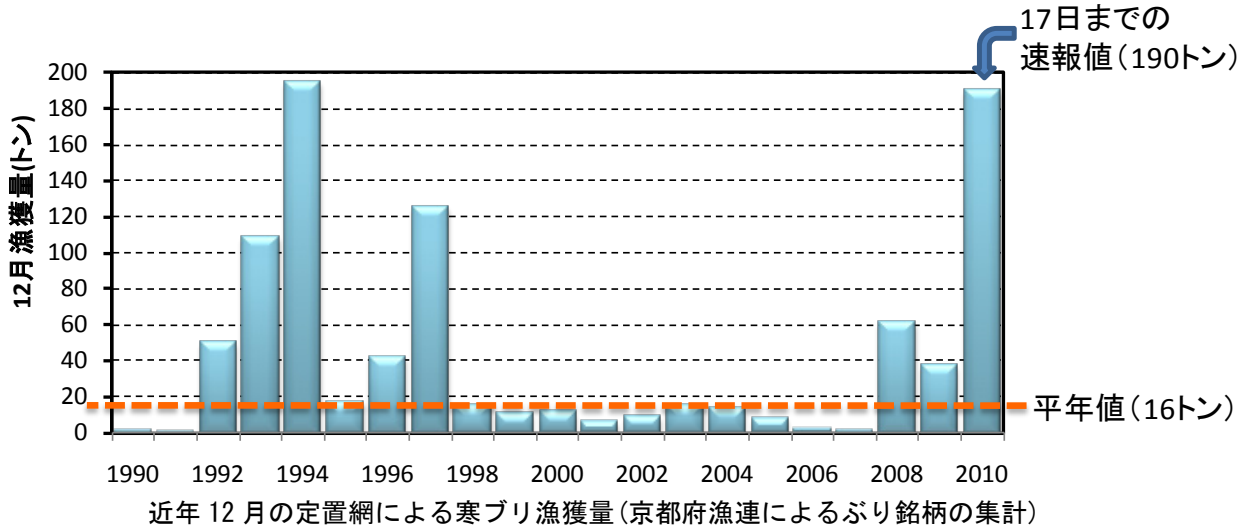
11月漁獲量(トン) 京都府漁連集計						
魚種	2010年	2009年(前年比)		平年(平年比)		備考
イカ類	20.5	5.4	(378%)	17.6	(117%)	<イカ類> ソデイカ(たるいか)が17.8トン、ケンサキイカ(白いか)が2.1トン、アオリイカ(秋いか)が0.4トンなどでした。 <タイ類> レンコダイが5割強、マダイ(尾さ長25cm前後主体)が5割弱などでした。 <アマダイ> 体長25cm前後が主体でした。
タイ類	3.5	4.3	(81%)	3.1	(114%)	
アマダイ(ぐじ)	3.4	2.3	(147%)	3.6	(94%)	
ブリ	1.2	4.0	(31%)	2.5	(50%)	
サワラ	0.9	2.5	(38%)	1.7	(56%)	
ウマヅラハギ(長はぎ)	0.8	0.5	(149%)	1.0	(75%)	
メダイ(たいしょううお)	0.7	0.3	(235%)	0.4	(154%)	
アジ類	0.5	0.9	(55%)	1.3	(39%)	
メバル類(もいお)	0.4	0.4	(117%)	0.4	(117%)	
タチウオ	0.1	0.1	(112%)	0.4	(28%)	
その他	2.7	3.0	(90%)	4.0	(68%)	
合計	34.7	23.7	(146%)	35.9	(97%)	

平年は過去10年平均

【トピック ～寒ブリの豊漁～】

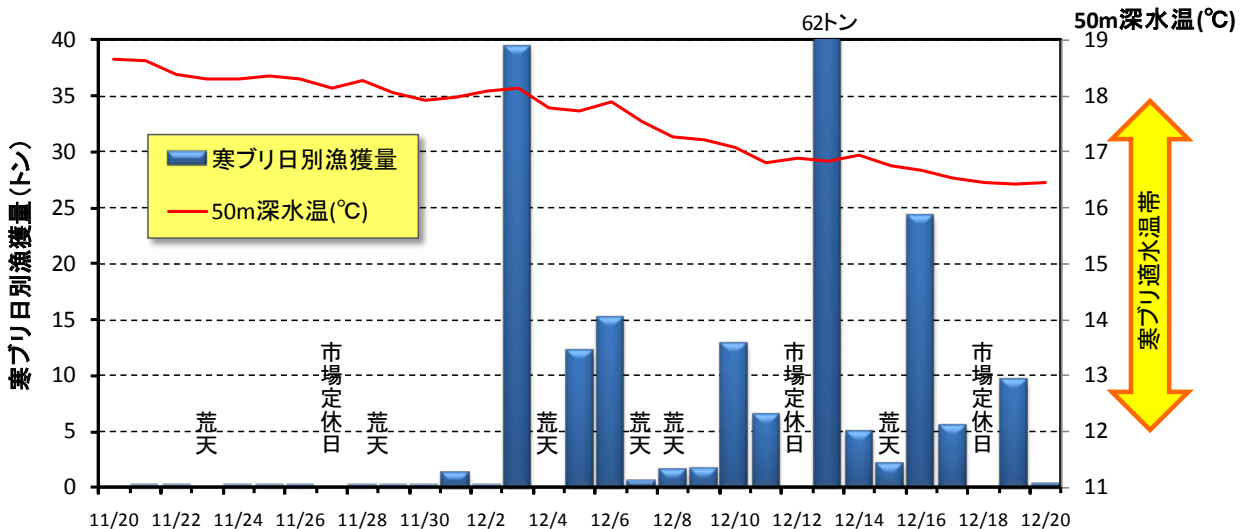
丹後の海では11月上旬にズワイガニ漁の解禁を迎えると、ほどなくして脂の乗ったブリ成魚(寒ブリ)もシーズンを迎えます。その寒ブリ漁の出だしが外海に面した定置網を中心に好調で、12月上旬～中旬だけで平年12月の寒ブリ漁獲量(16トン)をはるかに上回る190トン漁獲しました。下旬もとれ続けましたので、12月の寒ブリ漁獲量としては近年最高になる見込みです。

漁獲の中心は3歳以上とみられる尾さ長80～90cm台(体重8～12kg台)で、なかには体重15～20kgの超大物も混じっていました。生殖腺は全て未発達だったことから、春先に成熟して東シナ海やその周辺の暖かい海で産卵する群れとみられます。



現在のブリの資源量は比較的安定(水産総合研究センター調べ)していますが、ブリの漁模様は海況に左右される面があり、例えば水温が高めになると、日本海北部からの寒ブリの南下が遅れたり鈍ったりするようです。

今年は、秋以降の水温が順調に下降したことで、例年並みの12月頃から丹後の海にまとまった寒ブリの来遊があったとみられます。また、12月には冬型気圧による荒天(いわゆる「ぶり起こし」)が数日おきに発生し、これにより寒ブリの定置網への入網が促されたのかもしれない。



定置網による日々の寒ブリ漁獲量(京都府漁連集計)と50m深水温(伊根町新井崎地先)の推移(2010年12月中旬現在)